

## 平成28年度 放射線健康相談内容集計データ

### 1. 調査期間

平成28年4月～平成29年3月

### 2. 相談件数（のべ件数）

区 分	件 数	備 考
① 相談窓口	32件	※電話での問い合わせ対応含む
② 戸別訪問	1,427件	
③ 電話連絡	3,006件	
合 計	4,465件	

### 3. 避難種別内訳（のべ件数）

区 分	件 数	備 考
① 準備宿泊者	54件	※避難指示区域の解除前に自宅の修理・清掃等のため「準備宿泊者登録名簿」に登録し、夜間の自宅への宿泊が認められていた方
② 市内避難者	1,898件	※仮設住宅避難者、借上げ住宅避難者
③ 市外避難者	2,476件	
④ その他	37件	※自宅に戻られた方、匿名者など
合 計	4,465件	

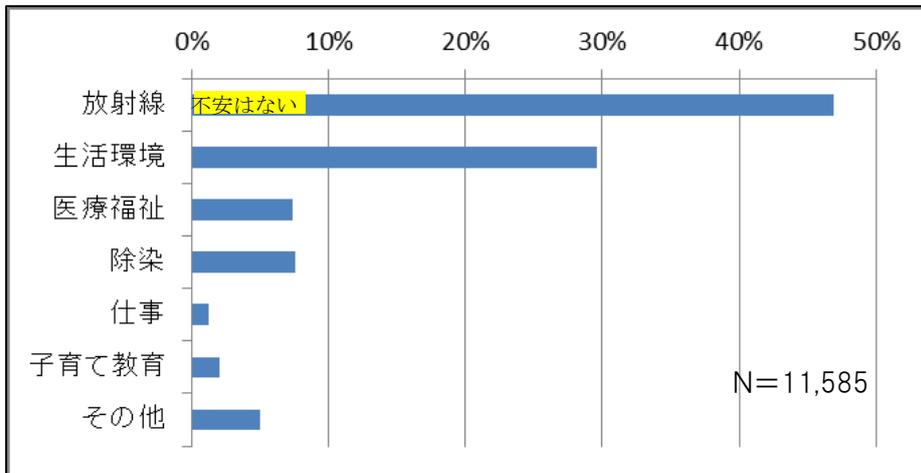
### 4. 相談内容（のべ件数）

項目	放射線	生活環境	医療福祉	除染	仕事	子育て教育	その他	合計
件数	5,438件	3,435件	858件	882件	154件	239件	579件	11,585件
割合	47%	30%	7%	8%	1%	2%	5%	100%

※1件につき複数相談があるため相談件数とは合わない

## 5-1. 相談内容の解析

### 5-1-① 全体の解析

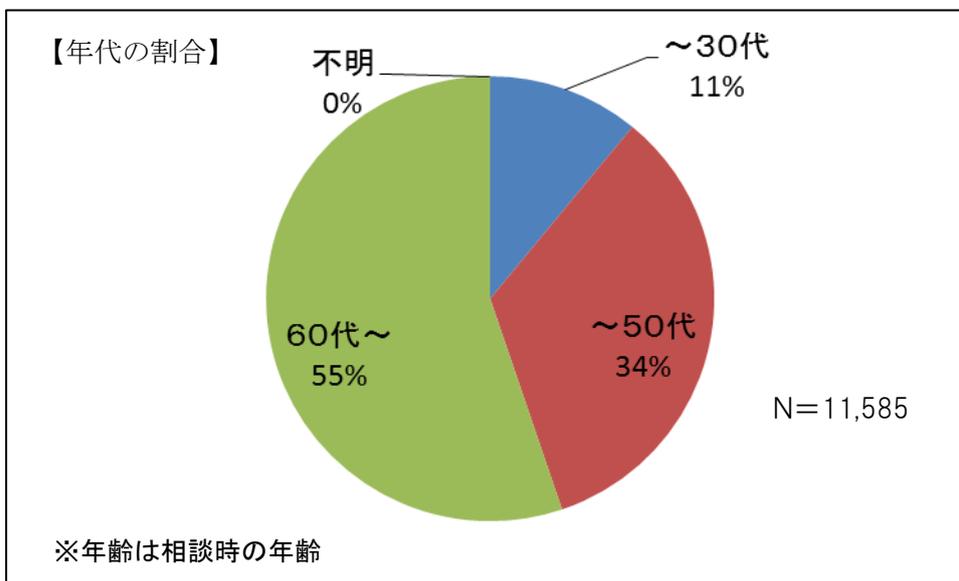


1) 放射線に対する相談が一番多く、5,438件で全体の約47%であった。

※5,438件中1,100件は「不安はない」という回答

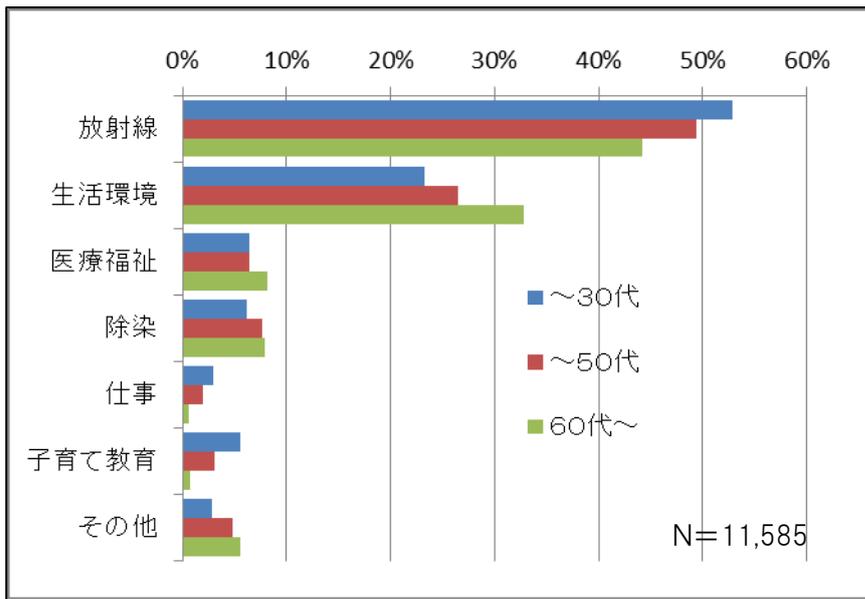
2) 続いて、生活環境に対する相談が3,435件で約30%であった。

### 5-1-② 年代による解析

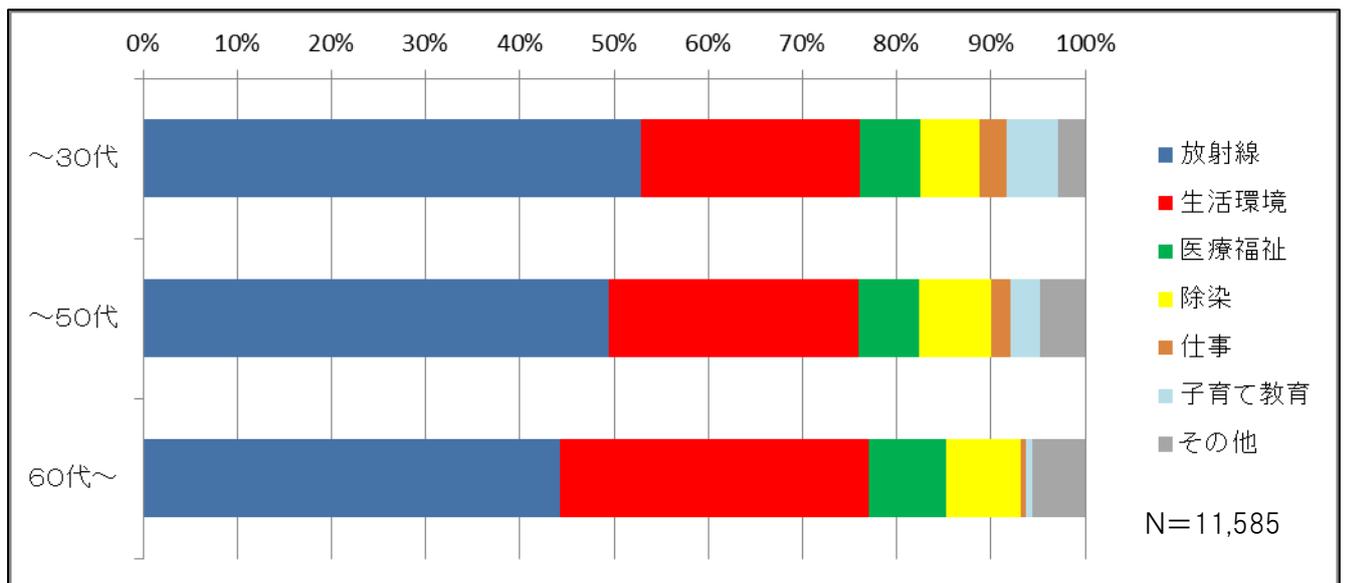


1) 相談内容における年代の割合をしてみると、60代以上が一番多く、全体の約55%を占めていた。

### 【年代毎の相談件数】

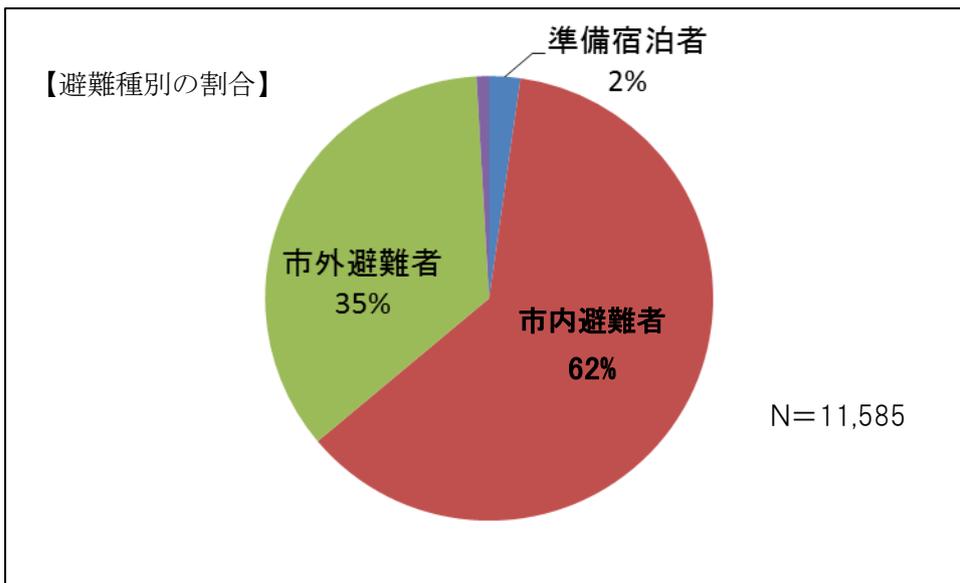


### 【年代毎の相談内容の割合】



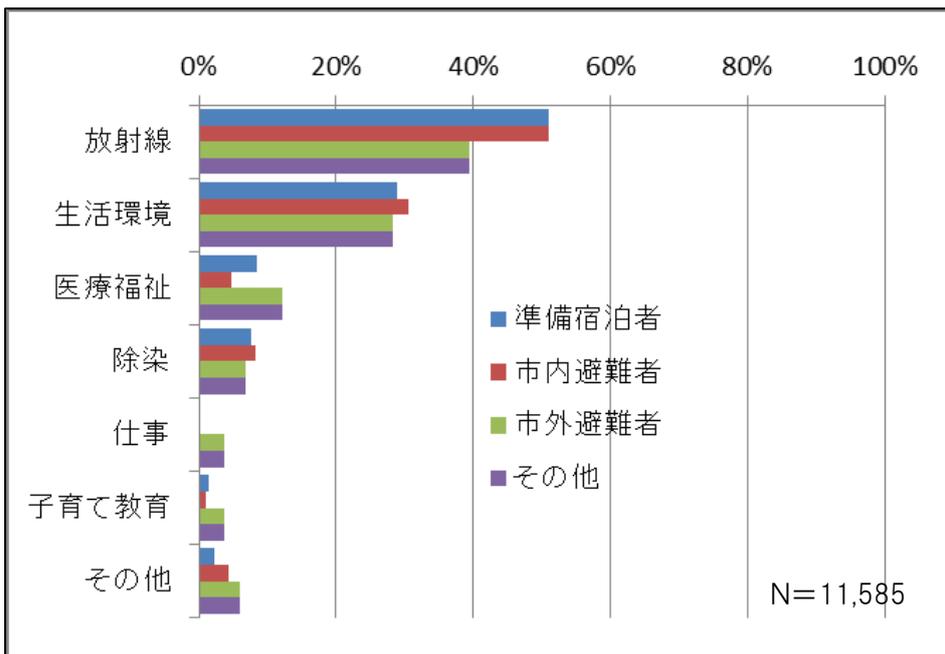
- 1) 年代が上がるにつれて、放射線に対する相談の割合が減少した。
- 2) 年代が上がるにつれて、生活環境に対する相談の割合が増加した。
- 3) 医療福祉に対する相談の割合も、年代が上がるにつれて微増している。

### 5-1-③ 避難種別による解析

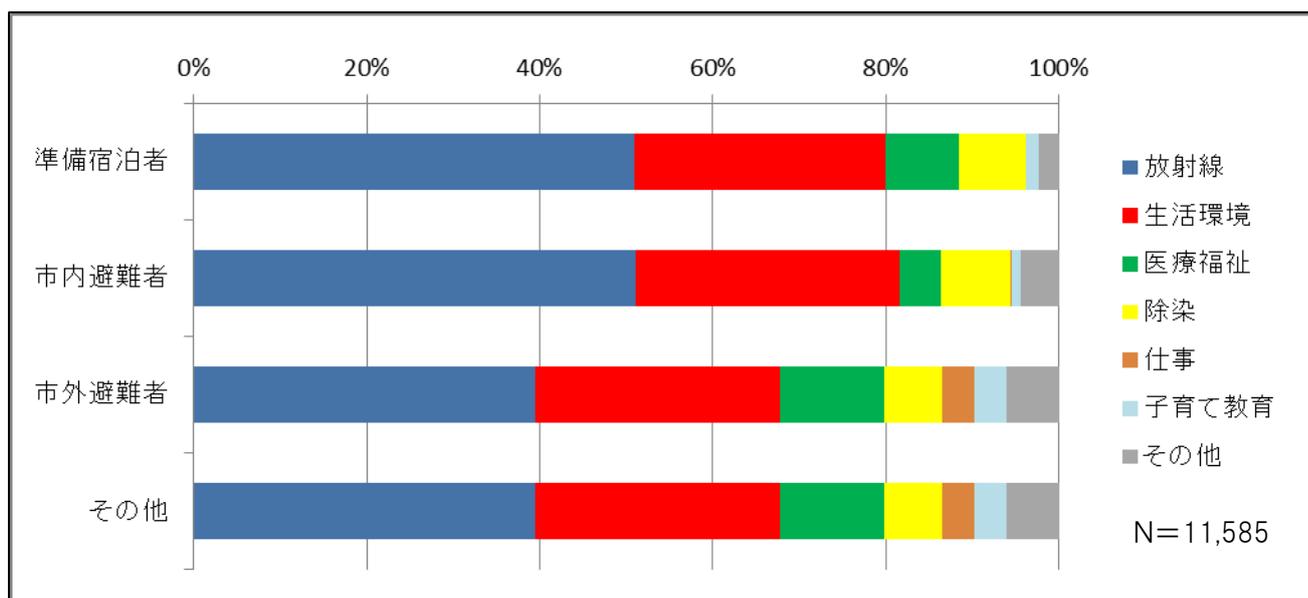


- 1) 相談内容における避難種別の割合を見てみると、市内避難者が一番多く、全体の約62%を占めていた。

#### 【避難種別毎の相談件数】



## 【避難種別毎の相談内容の割合】

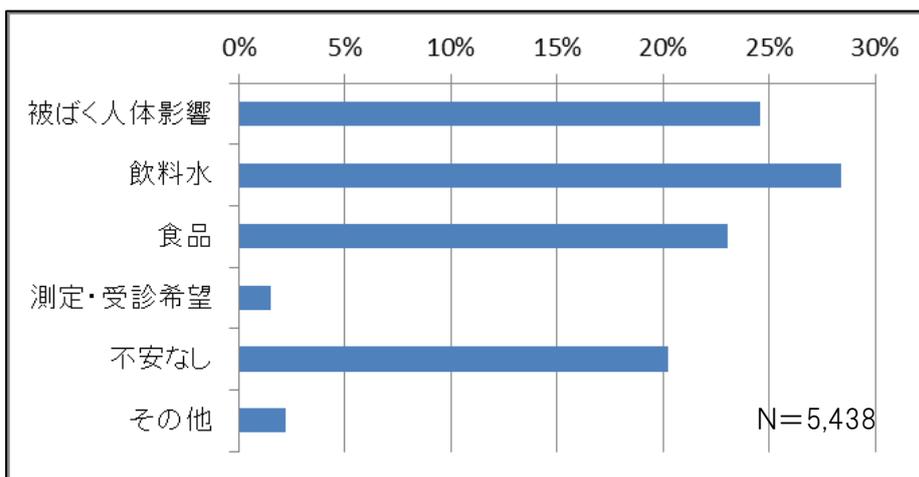


- 1) 全種別で放射線に対する相談が一番多く、特に準備宿泊者と市内避難者はそれぞれ約51%の人が放射線に関する相談をしている。
- 2) 生活環境に対する相談は、市内避難者が一番多かった。

### 5-2. 放射線の相談に対する解析

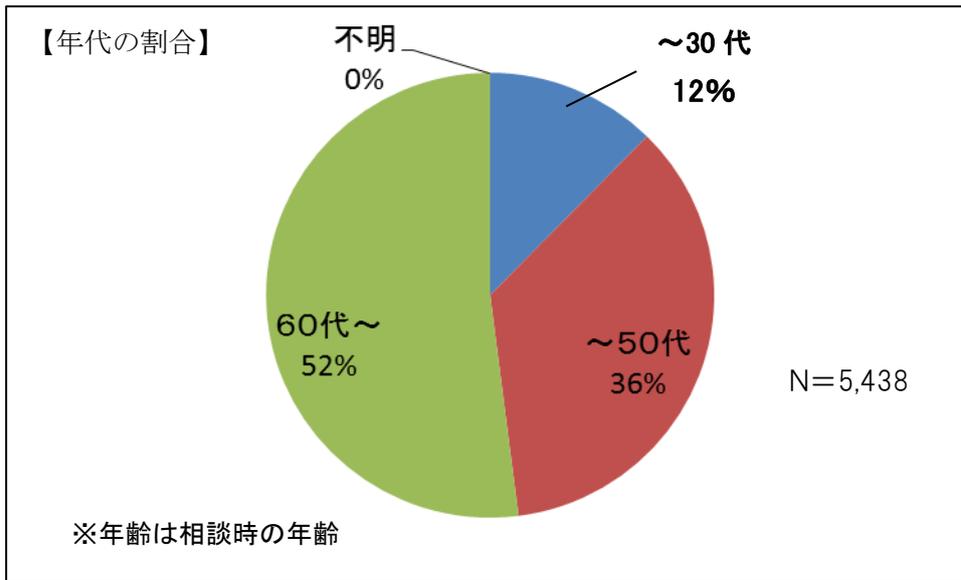
放射線に関する相談内容を細分化し解析した。

#### 5-2-① 全体の解析（放射線）



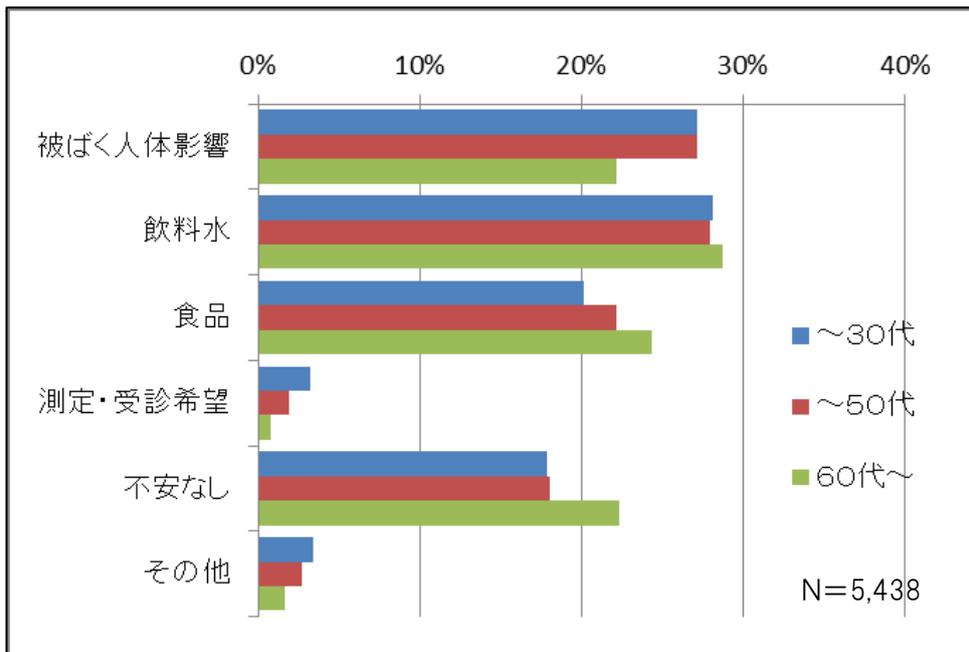
- 1) 放射線の不安に関しては、主に被ばくによる人体影響、飲料水、食品に関する相談であった。
- 2) 不安なしの割合は全体の約20%を占めている。

## 5-2-2 年代による解析（放射線）

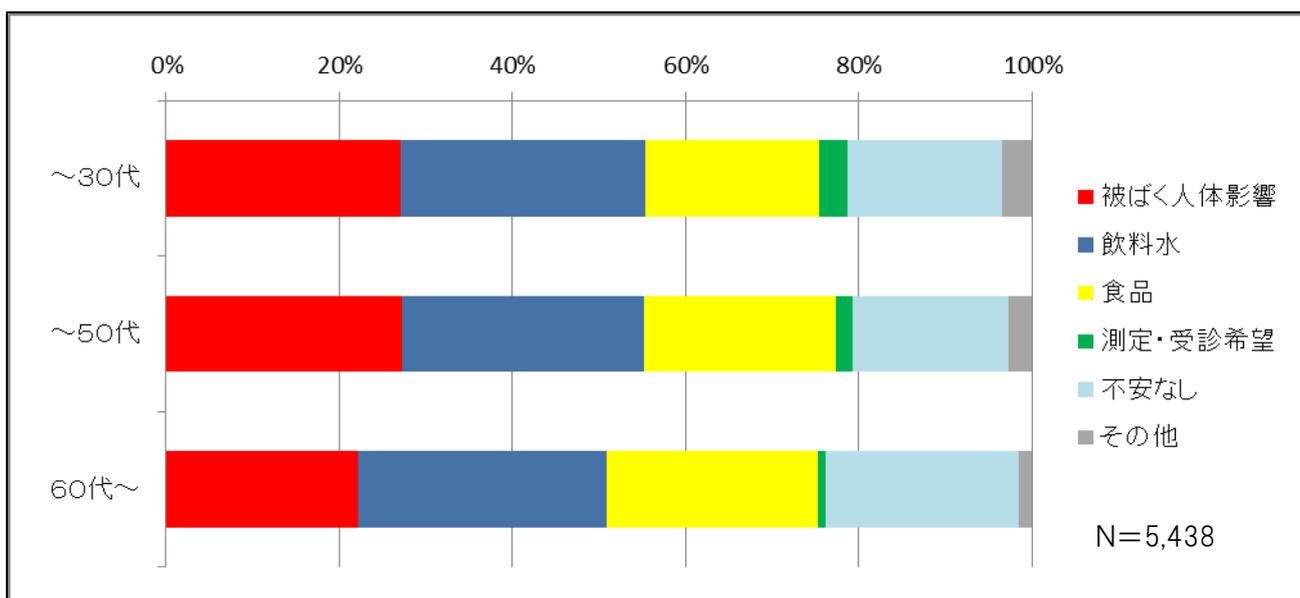


1) 放射線に関する相談内容における年代の割合を見てみると、60代以上が一番多く、全体の約52%を占めていた。

### 【年代毎の相談件数】

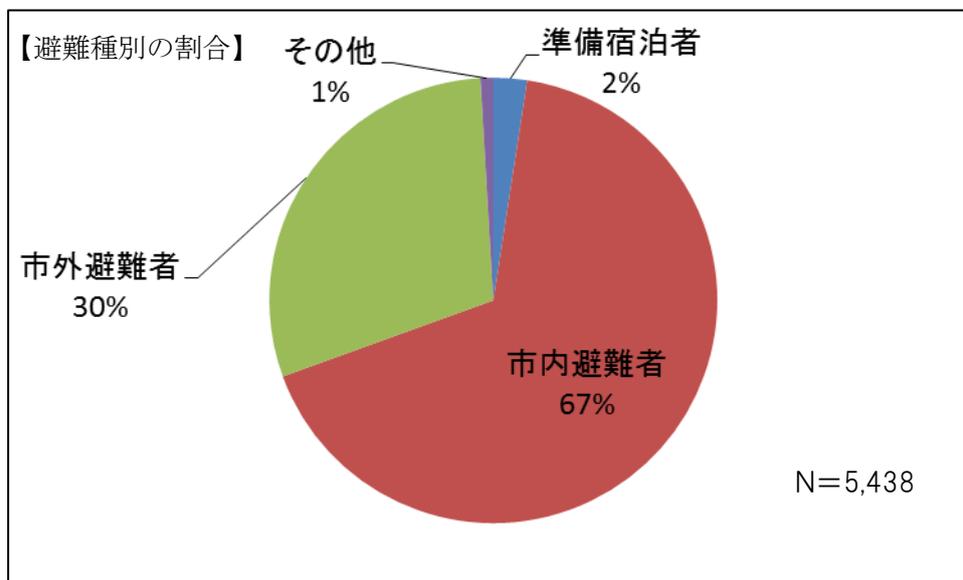


### 【年代毎の相談内容の割合】



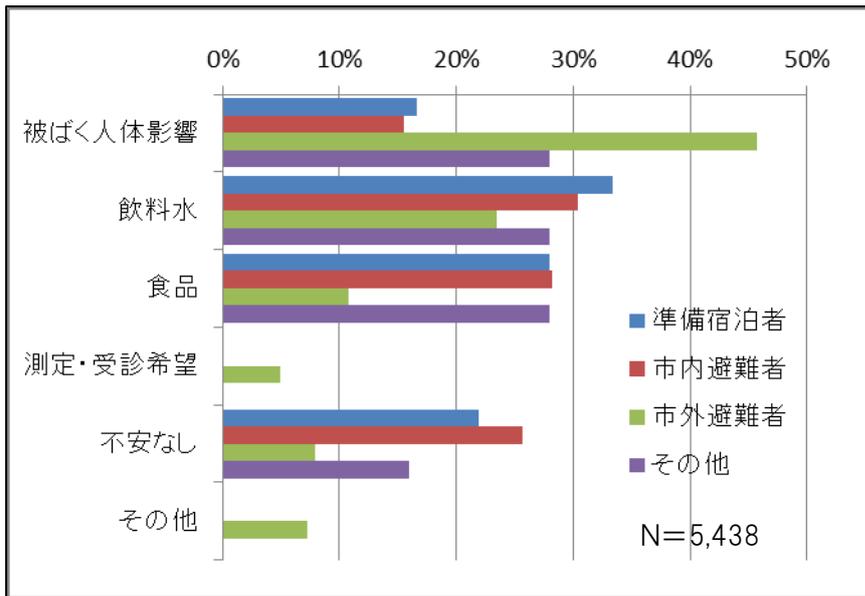
- 1) 50代までは、被ばくによる人体影響に関して不安があると回答する方が多い傾向となった。
- 2) 60代以上では、他の年代と比べて食品に関する不安が多いが、一方では放射線の不安なしと回答する方も多い傾向となった。

### 5-2-③ 避難種別による解析（放射線）

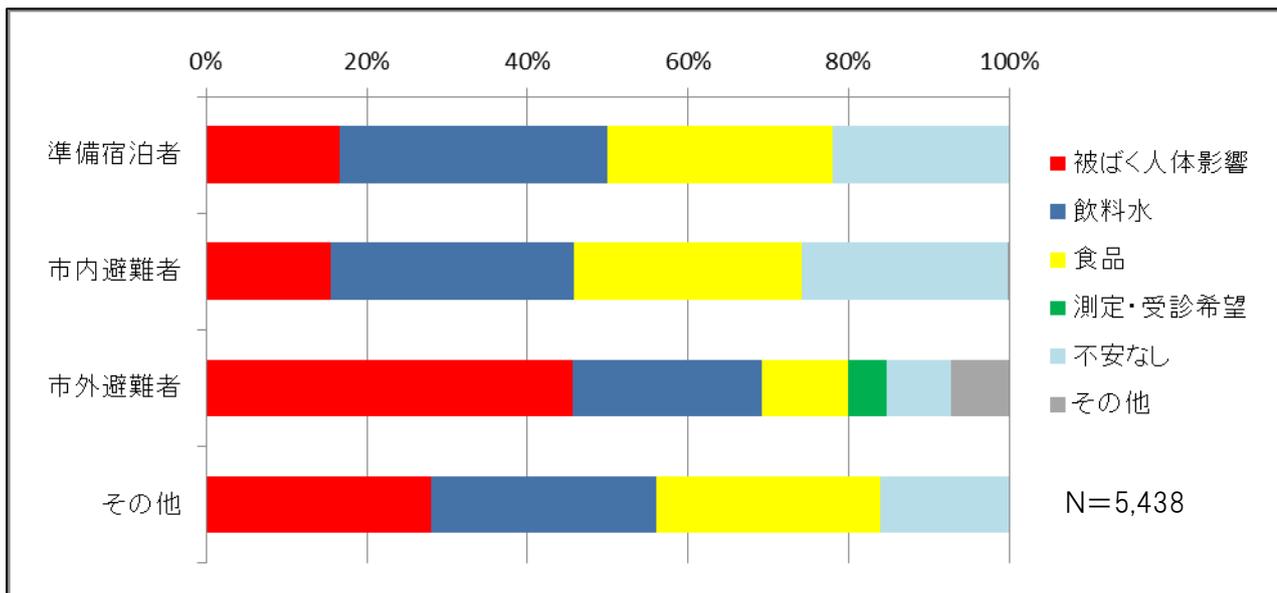


- 1) 放射線に関する相談内容における避難種別をしてみると、市内避難者が一番多く、全体の約67%を占めている。

### 【避難種別毎の相談件数】



### 【避難種別毎の相談内容の割合】

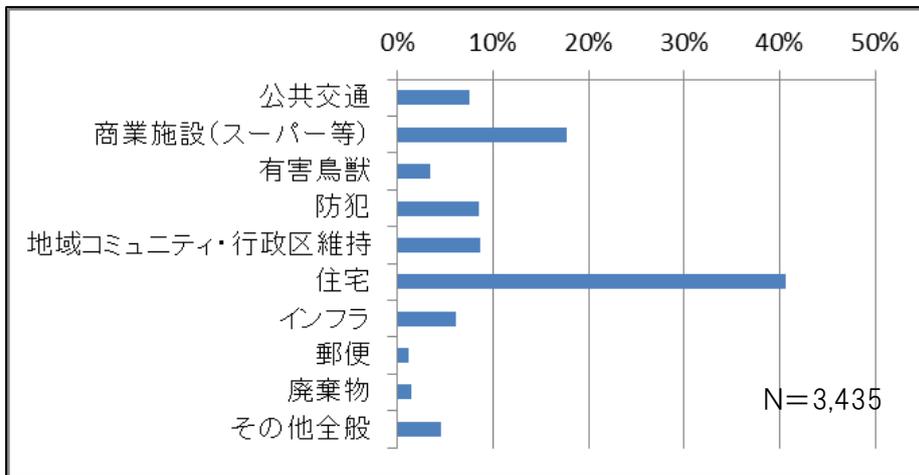


- 1) 被ばくによる人体影響に対する不安は、市外避難者が一番多かった。
- 2) 飲料水に対する不安は、準備宿泊者が一番多かった。
- 3) 不安なしとする回答は、市内避難者が一番多かった。

### 5-3. 生活環境の相談に対する解析

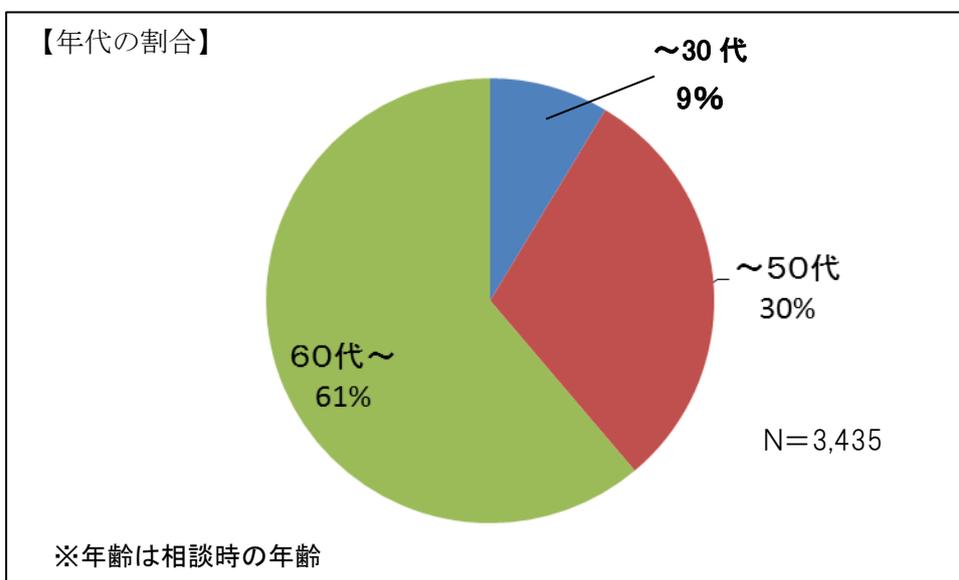
生活環境に関する相談内容を細分化し解析した。

#### 5-3-① 全体の解析（生活環境）



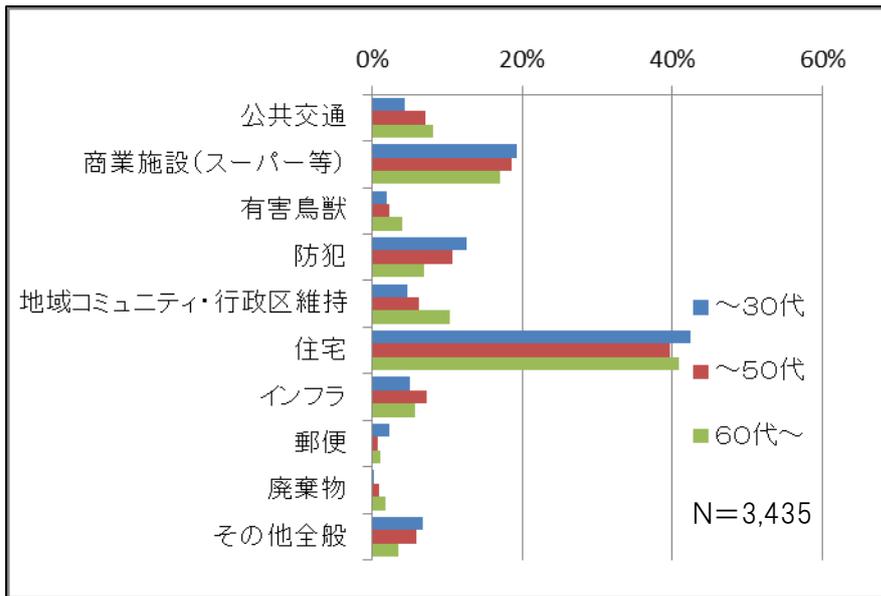
- 1) 住宅に関する相談が一番多く、約41%であった。
- 2) 続いて、商業施設の充実・再開に関する相談が多く、約18%であった。

#### 5-3-② 年代による解析（生活環境）

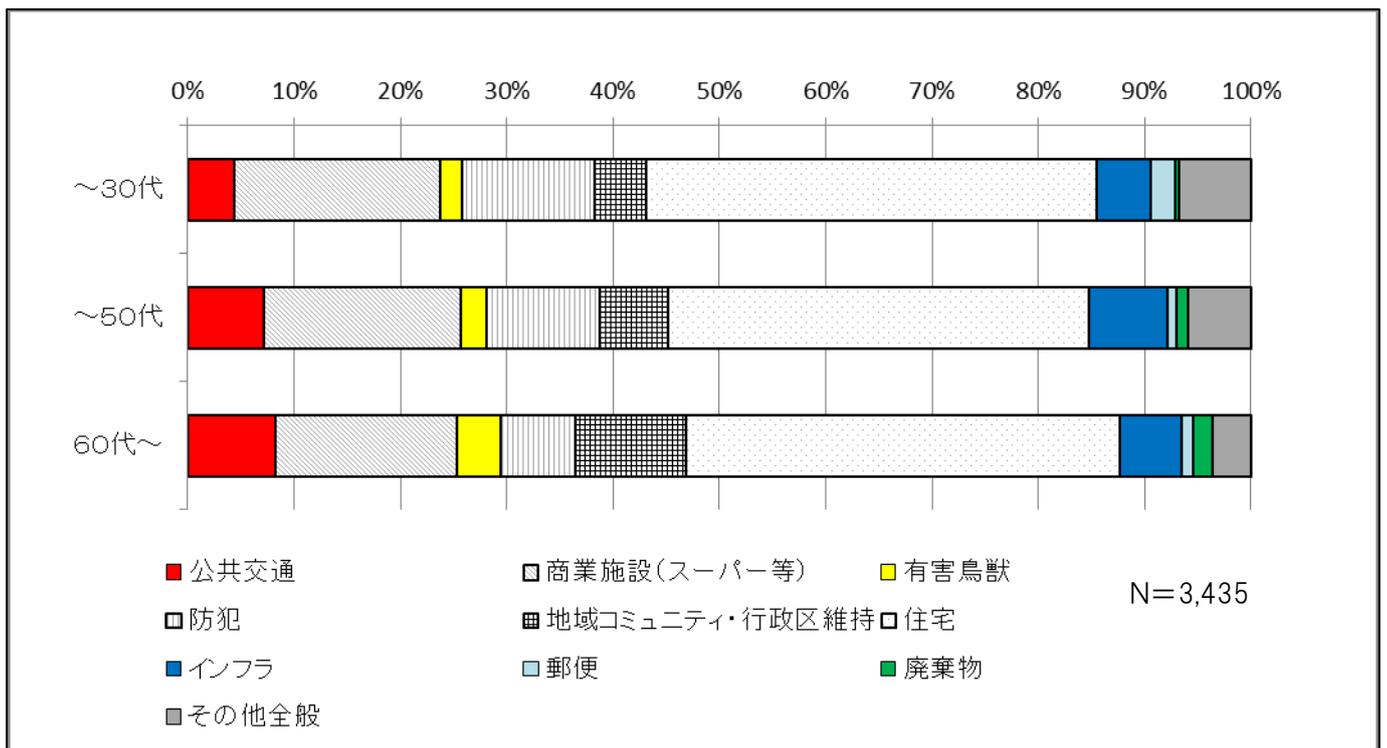


- 1) 生活環境に関する相談内容における年代の割合をしてみると、60代以上が一番多く、全体の約61%を占めている。

### 【年代毎の相談件数】

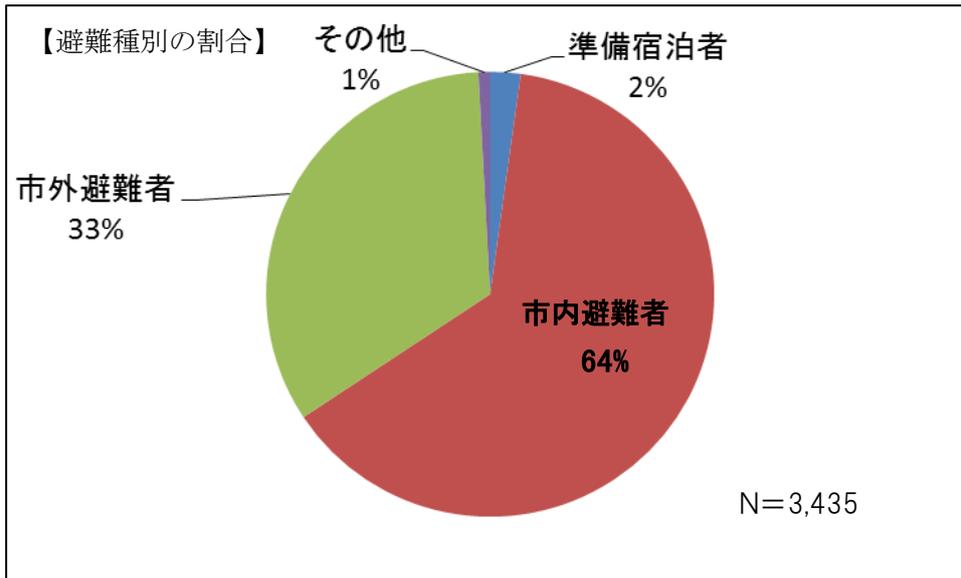


### 【年代毎の相談内容の割合】



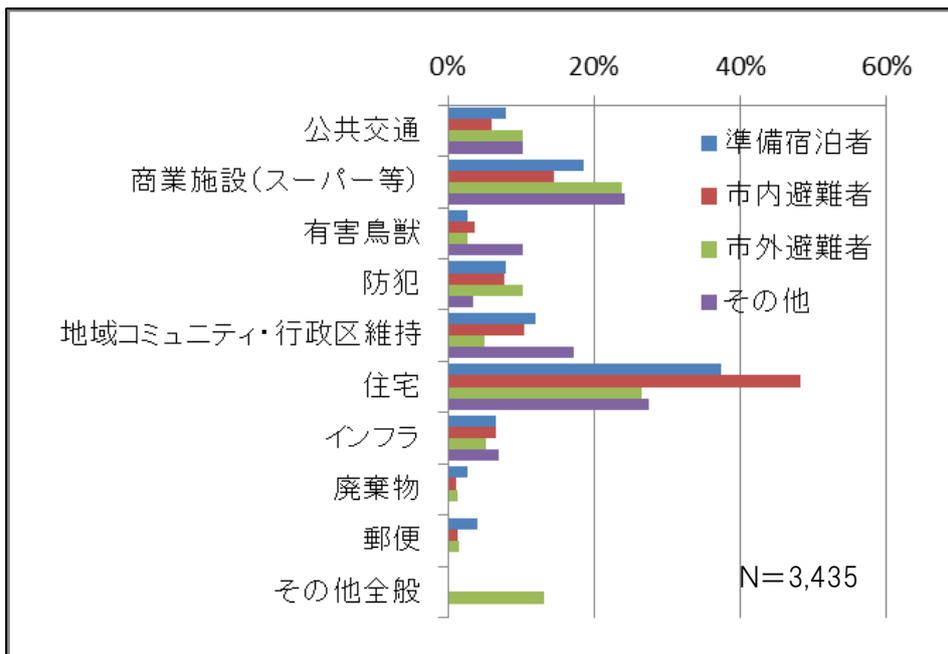
- 1) 公共交通、有害鳥獣、地域コミュニティ・行政区維持に関する相談の割合は、年代が上がるにつれて増加する傾向にあった。
- 2) 防犯に関する相談の割合は、年代が上がるにつれて減少する傾向であった。
- 3) 住宅に関する相談の割合は、全年代で一番高い結果となった。

### 5-3-3 避難種別による解析（生活環境）

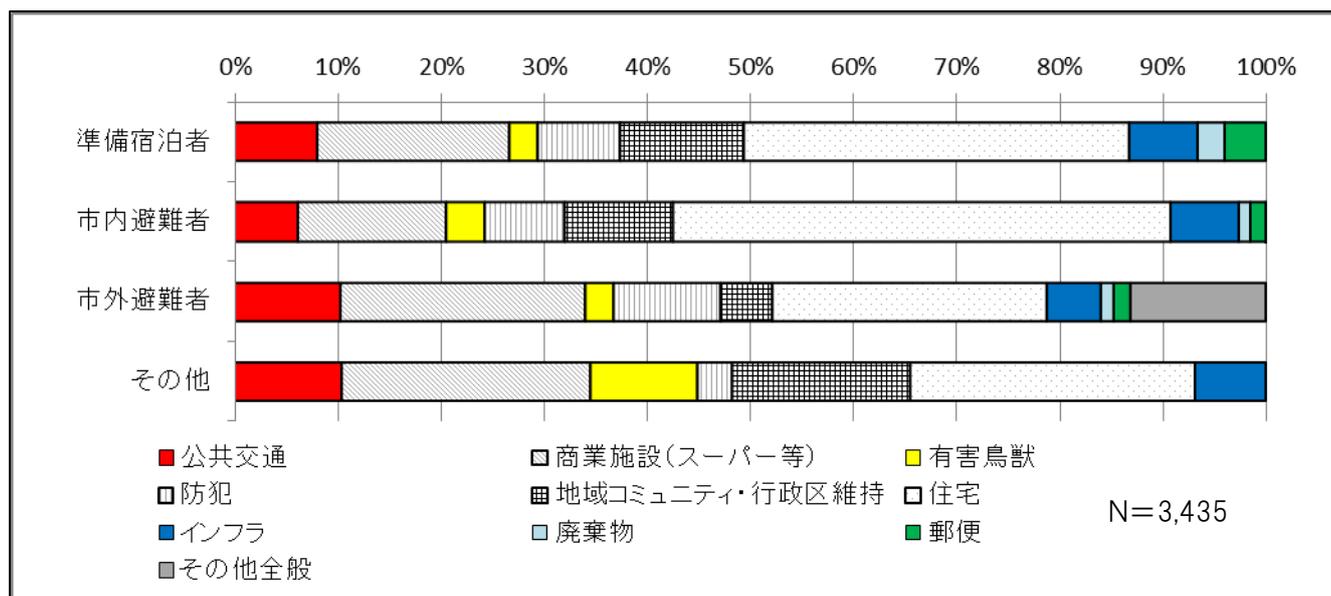


1) 生活環境に関する相談内容における避難種別の割合を見てみると、市内避難者が一番多く、全体の約64%を占めていた。

#### 【避難種別毎の相談件数】



### 【避難種別毎の相談内容の割合】



- 1) 地域コミュニティ・行政区維持に関する相談割合は、準備宿泊者が一番多かった。
- 2) 住宅に関する相談の割合は、市内避難者が一番多く、約48%であった。